



企画展 ちょっくら よってがっせえ 「ジオパーク秩父へのいざない」から

本間 岳史

博物館のリフレッシュオープンに合わせ、企画展「ジオパーク秩父へのいざない」を開催しました。“自然と人との共生”の視点から秩父の風土を紹介した今回の展示は、来館者に新鮮な印象を与え、関心をもっていただけたようです。ここでは、そのエッセンスをお伝えします。

【秩父の大地】 秩父山地は、奥秩父山地・秩父凹地帯・上武山地・外秩父山地に地形区分され、中生代の付加体や変成岩、新生代の地層などで構成されています。また標高に応じて、中間温帯・冷温帯・亜寒帯に属する林がみられます。

【ところ変われば生きもの変わる】 動・植物は、秩父の大地と深い関わりをもって暮らしています。石灰岩地にはチチブイワザクラやマイマイの仲間など固有の生物が数多くみられ、鍾乳洞にはコウモリの仲間が生息しています。チャートの岩壁にはムカデランやイワタケが着生し、イワツバメが営巣します。

【秩父の風土に培われた“伝統の技”】 水耕に適した平坦地が少なく火山灰土壌が広がる秩父地域では、早くから養蚕と絹織物が盛んとなり、江戸時代には広い地域で営まれました。明治20年頃からは工場経営が進み、「秩父銘仙」の名で知られるようになりました。

「解し捺染」という染色技法により、表が色あせても裏を使って仕立て直しができ、大正から昭和初期にかけて女性たちの実用着やおしゃれ着として人気を博しました。



【災い転じて福となす—地すべり地形の利用—】

かつて地すべりを起こした地域は、地面の傾斜がゆるくなるため土地利用がしやすくなり、畑や住宅地などに利用されます。芦ヶ久保地域では果樹公園に、栃本地域では畑や街道（秩父往還）に、それぞれ利用されてきました。

【“一味違った”札所の地学めぐり】 秩父の札所（観音霊場）には、急崖・滝・岩窟などの自然地形を巧みに利用した建物や巡拝道があります。境内には、不整合・堆積構造・洞窟・湧水・河川地形・風化地形などがみられる所があり、地形・地質を楽しみながら札所をめぐるジオツアーが行われています。

【秩父の風土とふるさとの味】 秩父地方には、郷土料理（伝統食）がたくさんあります。農作業の合間など小腹がすいた時に食べる「小昼飯」などを体験するのも、ジオパーク訪問の楽しみのひとつです。

秩父市街地の段丘崖下に湧出する地下水は、育苗・共同洗い場・醸造・生簀・銭湯・信仰などに利用され、石灰岩地から湧出する名水、地酒、地場産品、カエデの樹液を用いたお菓子などが、来訪者に喜ばれています。



【ジオパーク秩父の活動】 ジオパーク秩父を紹介する出前展示や、研修会・講習会への講師派遣、雑誌への投稿など、博物館の取り組みを中心に紹介しました。また企画展示室の通路に、全国各地のジオパークから提供していただいたポスター・パンフレット・リーフレットを掲出しました。

【体験コーナー】 展示室の一角に、音声ガイドで秩父弁を聞いたり、秩父の山の名前を当てたり、河成段丘などを立体視できるコーナーを設けました。また、よりくわしく知りたい人のために、ジオパークに関する書籍も閲覧できるようにしました。

【開催期間】

平成24年10月6日(土)～平成25年1月14日(日)

(ほんま たけし・専門員兼学芸員)